巻頭言

日本ポーラログラフ学会に御支援を

楠 文代

Please support The Polarographic Society of Japan.

Fumiyo Kusu

日本ポーラログラフ学会には親しみを感じているので、巻頭言を 2009 年に書かせていただいた。平成 24 年度会長を拝命し、まさかの巻頭言への再登場となった。正直、戸惑いは隠せない。樹を切った後にこれは大変とばかりにひこばえが勢いよく育ち、樹木や森がさらに健やかに育つという。樹木を切った大変さに倣って本会が育つことを期待する。幸いにも、相樂隆正編集理事、白井理会計理事、西直哉庶務理事はじめ理事会メンバーは実力の優れた先生方が揃っていて、より良い学会作り・学会運営に頑張っている現状がある。

昨年、日本は大震災と原発事故に見舞われ、さらに世界の経済事情も厳しい状況が続いて大変な年であった。その中で、なでしこジャパンが女子サッカーワールドカップで優勝できたことは、サッカーファンでなくてもおおいに喜び励まされた。確かに日本女子は体力的には決して恵まれていないから、奇跡というような声まで聞こえていた。なぜ勝てたか？これは、日本人らしい素質が活かされたと考える。お互いの知恵を出し合い、協力と連携を遺憾なく出し切り、忍耐強く試合を進められたから勝てた。日本は農耕民族として今に至っている。狩猟民族と

は違って耕地を協力して耕し、天候と相談しながら種をまき、辛抱強く育つのを待つ。あまり議論を好まない、状況を伺いながらの生活であったに違いない。しかし、いったん親交関係が成り立つとその絆は強い。ディベートが下手な日本人が、そういう邑で協力連携関係を築いた共同作業を進めるときは強い。このような力は、はやぶさの成功例にも示されてきた。

そのような日本人らしい力は、日本ポーラログラフ学会にずっと蓄えられてきているように感じている。確かに滴下水銀を使ったポーラログラフイーの研究や講演は非常に少ない。しかし約 250 名の会員を擁し、ポーラログラフイーのノスタルジアでなくて真に学問の面白さを進めている。ポーラログラフイーを源流とする電気化学が、流行に飲み込まれずにその時代時代に必要な視点の学問を築き、世の中に科学的に正しい事柄を発信し、文化と科学の発展に寄与する、それが本学会の役目と思ってきた。

昨今、インターネットは国際的に政治にも影響する勢いで爆発的に広がってきた。一方で真に科学的に正しくない、妥当でない情報が世の中に氾濫することはわれわれの生活が脅かされる時代とも言

える。誰もがネットで得た情報を鵜呑みにしている状態が、なんとなく多数が声を上げればそれに流される。そんな世の中だから学会は以前にもましてしっかりしなければならない。学問の府として重要な役目を託されている。科学の発信元であってお互いがそういう観点で情報交換をする。その意味で、アーカイブをたどれば、しっかりした情報を 60 年間も発信してきたし、当然これからも発信し続けることが期待される。発信するのは会員。特に若い会員達には学会の仲間を一杯作ってほしいと思う。ディベートが下手な日本人が協力連携関係を築き、情報の質向上に貢献する。

自分自身を振り返って多くの恩恵を受けてきた。学会に参加して、ディベートとはほど遠く、教えてもらうことばかりであった。例えば、炭素電極の材料と性能についてご指導いただいた結果として、酸度計開発や電解プレカラム作りに繋がったことは、学会活動の一種の成功体験と感じている。

『電気分析化学の未来』について伊豆津公佑先生からいただいたメッセージは、電気分析の実用面を頑張ろうとした時の私には嬉しかったので、これをそのまま若い世代に伝えたい。

『電気分析化学の未来：』

- ☆ 測定原理、理論、方法、装置、測定系（セル、電極、媒体）の新発展
- ☆ 化学測定の究極への挑戦—微小質量、微小サイズ、微小時間、微小濃度等
- ☆ 電気化学測定法の特徴を発揮した技術の進歩

- 1) 電極部分の微小化及び遠隔操作：生体や環境の *in situ, on-site* 測定

- 2) 酸化還元状態、酸塩基状態、イオン活量（錯形成、溶媒和）等の量的測定
 - 3) 電極の機能化による測定対象の多様化と高性能化
 - 4) クリーンな試薬源としての電極の利用
- ☆ 他の計測技術との *in situ, ex situ* での連携の拡大
 - ☆ 日常分析法、物性測定法としての応用の拡大
 - ☆ 環境・資源・エネルギー問題への応用増加—環境分析・モニター、環境汚染除去処理；CO₂ の資源化；クリーン電解合成・重合；クリーンエネルギー（太陽エネルギー変換、燃料電池）；リチウムイオン電池、キャパシタ、電気自動車等
 - ☆ 生命科学への応用増加—生体物質分析；生命現象（生体膜・神経・筋肉の機能・ホルモン作用等）の研究；生体エネルギー学、遺伝子工学、生体電気触媒等』

ご存知のように、垣内先生はじめこれまでの役員のご尽力で 2008 年から J-STAGE で Review of Polarography にアクセスできるようになっている。

（<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/revpolarography>）書籍の上でしかお目にかかったことのない先生方の生のお姿が垣間見える点でも興味深く楽しい。会員の皆さまも是非アクセスしてみてください。

人の輪の広がりや暖かなこの日本ポーログラフ学会に感謝し、今後とも御支援とご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

（くす・ふみよ、東京薬科大学薬学部、本会会長）